

全国大会に想う…、「因縁」、「情けは人の為ならず」

合掌

11月3日、無事「少林寺拳法全国大会 in 埼玉」が終了しました。全国大会が埼玉で開催されると決まってからおおよそ1年の準備期間を経て、何とか開催までこぎ着けました。一つ一つ行事が終わる度に、多くの人達の協力や支えによって、様々なものが成り立っているのだと実感させられます。

ラインの「さいたま桜道院」に寄せられたコメントです。

皆様、今日一日大変お疲れ様でした。とても良い大会でした。

出場拳士の皆さん、スタッフとして支えて下さった皆さんありがとうございました。大会が終了しても、まだ片付け等があり大変かと思いますが、最後までよろしく願いいたします。

全国大会、本当にお疲れ様でした。また、事前準備から当日のお手伝いまでして下さい下さった皆さん、お役に立てずすみません。ありがとうございました。

全国大会、お疲れ様でした！

前日の設営から参加させていただき、いつもたくさんの方のおかげで大会に参加できていることを改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。応援に来て下さった皆さんもありがとうございました！来年の全国大会 in 京都に向けてまた頑張りたいと思います。

私たちがこうして生きているということは決して自分一人だけでは在り得ません。多くの関わりの中で、命を営んでいるのです。食べ物が食べられるのも、その食材についてのこれまで先人の知恵や経験から、それがどのようにして食べられるのか、どのようにして作られるのかということから、生産されるようになったのであり、また、それを実際に生産してくれている人がいるから、口にすることができる。ふぐ料理を例にとれば、ふぐの毒の部位は、かつて、その部分を食べて命を落とした多くの人達がいたから、危険であるということを知ることができ、その調理法を身につけた人がいることで、私たちはふぐ料理の口にすることができる。もっとも、ふぐ料理を食べるためにお金を出してくれる人がいないと無理ですね。私にはまだ縁が無いようです。

釈尊は、その過去の経験(ふぐを食べて亡くなった人や、調理方法の確立等)や出来事など、時間的な関係を「因」とし、今現在の様々な事実との関わり(実際にふぐ料理を食べる等)など、空間的な関係を「縁」としました。これが、釈迦の説く「因縁説」です。つまり、人や物事はそれ単体では存在できず、様々な因縁によって在るのであり、因縁によって、常に変化しているということです(仏教ではこれを「空」といいます)。開祖は、それこそ宇宙の真理であり、この世のあらゆる事象や関係性を司るものを、宇宙の大いなる力「ダーマ」と表現し、そうした大いなる力「ダーマ」の分霊たる自己、つまり、常に変化し変わる自己を認識し、日々の修練により、より良い自己を形成していくことを「自己確立」と表現したのです。そして、そうした自分が、良い「因」となり「縁」となって、周りとの関係を作り、人の役に立つ存在として、より良い社会を形成していくこと、これを「自他共楽」と言ったのです。そして、そういう人を一人でも多く作っていくこと、これが少林寺の教えなのです。

さて、全国大会が終わりました。上のメールを見て、文面に表れている「感謝」の言葉に、少林寺の教えが生きているなと感じました。これまで、全国大会の準備等、大変だったり、また、周りにも苦勞をかけたりましたが、それは決して無駄ではなかったと、うれしく思いました。「情けは人の為ならず」と言います。良い「因縁」は、きっと良い結果をもたらします。自分がまずは、良い「因縁」となるよう、日々研鑽を重ねていきたいものです。